

ICT リテラシー (情報技術論) A

-- 第 02 回 : -- プライバシー/インターネット -- --

栗野 俊一

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く
禁じます

2024/04/16 ICT リテラシー (情報技術論) A

伝言

私語は慎むように !!

□ 席は自由です

- できるだけ前に詰めよう
- コロナ対策のために、ソーシャルディスタンスをたもとう

□ 色々なお知らせについて

- 栗野の Web Page に注意する事

<http://edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp/~kurino>

- google で「kurino」で検索

お詫び: 第01回の動画について

□ 第01回の動画について

- 講義動画は作成した (月曜日の方は、目にしているはず..)

 - ▶ 削除されてしまった(とりあえず、栗野の責任ではないが..)

- 現在は、昨年度(2023年度)版を公開している

 - ▶ 今年度はこれで行く

□ 教訓(色々..)

- 人間は失敗する生物/天災は忘れた時にやってくる

 - ▶ 保険の考え方は重要

 - ▶ バックアップは ? : ユーザはサービスを過信してはいけない

- 「情報システム」の怖さ: 簡単に色々な事ができてしまう(拡大機能)

 - ▶ 便利 ? : 情報システムの最も良い性質

 - ▶ 危険 ? : 情報システムを扱う上で、念じて置く必要がある性質

- End User の資産の損失

 - ▶ (自分ではなく..)他人の資産を与るという認識

前回 (第 01 回) の復習

ICT リテラシー (情報技術論) A

前回 (第 01 回) の復習

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く禁じます

前回 (第 01 回) の復習

□ 前回 (第 01 回) の復習

○ 初回だったのでガイダンス：講義を受講するかどうかを判断する

- ▶ 話者の紹介 (「kurino」で検索 / 一昨年、理工学部から経済学部に移った)
- ▶ 講義の方針 (資料の参照方法 / 講義の方針 / 評価方法)
- ▶ 講義の目的：IT技術について、正確な知識と情報化社会の常識を身につけること
- ▶ テキスト：寺沢, 福田著, 入門情報処理-データサイエンス, AIを学ぶための基礎-

○ 講義：現代社会・経済における情報環境の位置付け

- ▶ 現代社会は情報社会：情報が大量に簡単に素早く手に入るようになった (飽和している)
- ▶ (時代に沿った)情報を扱う技術 (IT/ICT 技術) が必要になった
- ▶ 情報技術は便利な技術 -> 同時に危険を伴う
- ▶ まずは、身を守る技術から身に付ける (インターネットリテラシ)

今週 (第 02 回) の概要

ICT リテラシー (情報技術論) A

今週 (第 02 回) の概要

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く禁じます

今週 (第 02 回) の予定

□ 今週 (第 02 回) の予定

○ 講義

- ▶ WebClass の利用法
- ▶ プライバシー
- ▶ インターネット

今週 (第 02 回) の目標

□ 今週 (第 02 回) の目標

○ 講義

- ▶ WebClass を利用して課題が解けるようにする
- ▶ プライバシーの概念を学ぶ : OECD8 (8 つの原則)
- ▶ インターネットの仕組みを学ぶ

今週 (第 02 回)

- 前回 (第 01 回) の課題
 - 初回だったの無し
- 今週 (第 02 回) の課題
 - Web Class「小テスト-02」

プライバシーと個人情報

ICT リテラシー (情報技術論) A

プライバシーと個人情報

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く禁じます

プライバシーとは

□ プライバシーとは (Text p.3 1.2 節)

○ 放っておいてもらう権利

- ▶ [受動的] 他人から自分の自由な行動を束縛されたくない (パパラッチは嫌い)

○ 個人情報とプライバシーの関係

- ▶ プライバシーを侵害するため手段として、個人情報が利用される
- ▶ 例: 電話番号/住所/就職先 (ストーカー怖い)
- ▶ [能動的] 自己に関する情報の流れをコントロールする個人の権利

○ 社会: 人と人の関わり (他人から構ってもらう..)

- ▶ 自然に個人情報が交換される (プライバシー権利の一部抑制)
- ▶ 「親しくなる」=「互いにプライバシーの侵害を許す」
- ▶ 名刺の交換: 連絡してください

個人情報とは

□個人情報

○個人情報保護法 (what)

▶ 生存する個人に関する情報であつて、特定の個人を識別することができるもの

▶ 例：氏名,年齢,性別,住所,電話番号,学歴,職業,家族構成,メールアドレス(趣味,嗜好,結婚歴,宗教,犯罪歴,病歴)

○第三者によって何らかの価値が付与され得るデータ (why/how)

▶ 個人に関する情報が、第三者に集積蓄積され、保管管理され得る形態に転化したもの

▶ 例：コンビニの購買記録, Google の検索履歴, amazon の購買履歴

○名寄せの問題

▶ 複数の情報を照す事により、個人が特定できてしまう可能性がある

OECD8 (8 つの原則)

□ OECD8 (8 つの原則)

- 収集制限の原則：同意の上での収集
- データ内容の原則：利用目的に合う最新内容
- 目的明確化の原則：収集前の利用目的伝達
- 利用制限の原則：目的以外の利用禁止
- 安全保護の原則：不正アクセス,改ざん防止
- 公開の原則：管理内容,問合せ先の公開
- 個人参加の原則：対象者による消去,修正の権利
- 責任の原則：原則実現に関する責任

個人情報とサービス

□ 個人情報とサービス

○ サービスの個別化: 顧客の特徴に対応したサービスメニューの変更

▶ 個人情報の提供とトレードとして、手厚いサービスが受けられる

▶ 例: お馴染さん, google の広告サービス, amazon の協調フィルター

○ サービスを受けるために、個人情報の提供を促される構造

▶ 例: 友達との連絡がとりやすくなるように、携帯番号の電話番号データが利用される

□ 個人情報漏洩の問題

○ 個人情報を収集している第三者経由で、情報が流出してしまう危険性

▶ 個人が自分の権利を守るために、積極的に、他に働きかける必要がある

プライバシー権利を守るには

□ 個人情報保護法

- 事業者が保有する個人データに関して「本人が関与できる仕組み」が提供されている

- ▶ 「情報の開示」、「情報の訂正・追加・削除」、「情報の利用停止」

□ 自己情報を自分でコントロールするために気を付ける事 (カッコ内は「試験」例)

- 情報収集者は誰か (教員)

- 利用目的は何か (成績評価のため)

- 安全に保護されるか (認証付きの Web System に保存)

- 第三者に流される可能性はないか (外に出されるのは最終結果だけ)

- 開示・訂正・利用停止を求めることができるか (単位認定で不満があれば..)

- 相談窓口などの連絡先が明記されているか (教務課)

□ 自分の情報は自分で守るしかない

- いくら配慮しても「情報の一人歩き」の可能性が否めない

インターネットとは

ICT リテラシー (情報技術論) A

インターネットとは

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く禁じます

インターネットとは

□ インターネットとは (Text p.22 : 2 章)

○ インター(～の間に作られた)ネット(ネットワーク)

▶ ネットワークとネットワークを継ぐ (ネットワークの間の) ネットワーク

□ インターネット以前のネットワーク

○ 近距離 (教室内とか、会社内で接続可能な..) ネットワーク が沢山あった

▶ LAN : Local Area Network

□ インターネットの設置

○ LAN と LAN を結んで、通信を行うネットワークとして作られた

▶ 当初 : LAN 内の通信方式と LAN 間の通信方式 (IP : Internet Protocol) が違っていた

▶ 現在 : LAN 内の通信方式も IP を利用している

□ 現在の「インターネット」

○ internet : IP を利用して通信をするネットワークの事

▶ PC を二台繋いで、(IP を使って通信すれば..) internet が作れる

○ The Internet : internet の一つで、現在、世界中を継ぐために利用されている物

▶ 俗に言う「インターネット」はこれ

▶ 軍事ネットワーク等は、internet ではあるが、The Internet の一部にはしない(安全性のため)

インターネット上のサービス

□ インターネットは単なる通信技術

- 通信を利用して、遠距離に設置されているサービスを利用する

- ▶ 例: アメリカのインターネットサービス(DARPA Net)は、遠距離にある大型コンピュータを利用するため

□ サーバ＝クライアントモデル

- ネットワークを利用したサービスの提供形態の一つ

- ▶ サーバ: 常に通信を待ち受け(入れるため電源が入っ)ていて、クライアントからのサービス要求を受ける

- ▶ クライアント: サービスを受けたい時に、サーバにサービス要求を行う

- 通信の非対称性がポイント

- ▶ 例: Web サーバ/Web クライアント(ブラウザ)

□ インターネット上の様々サービス

- サービスを提供するサーバが設置され、インターネット経由で、サービスが受けられる

- ▶ 例: 電話で受けられるサービス (144, 110, リカちゃん電話)

WWW : World Wide Web

□ WWW : World Wide Web

- 実体は、Web サーバに保存されている HTML ファイル(Web Page)の集合

- ▶ Web Page 内のハイパーリンクによって、Web Page 同士が繋がっているように見える (Web)

□ 検索エンジンと SEO

- 膨大な Web Page の内容は、(人間には..) 把握しきれない

- ▶ 情報は在るだけではダメで、それを取り出す事ができる(場所がわかる)必要がある

- 検索エンジン

- ▶ キーワードを利用して、そのキーワードに関連した Web Page を探すサービス

- ▶ Call by Need : 必要になったら用意する (情報検索システムが必須)

- SEO (Search Engine Optimization : 検索エンジンに最適化)

- ▶ 検索によって、特定の Web Page が見付かりやすくする (cf. kurino)

インターネットの通信原理

□ インターネットの通信原理

○ パケット通信：通信を複数の小さな単位(パケット)に分割して、中継をする

▶ 同一経路で、複数の通信を同時に行う事ができる

▶ 複数の経路で通信を行う事ができる

▶ cf. 回線交換(昔の電話)：通信元と通信先を、直接結ぶ

○ パケットには、通信先のアドレス (IP Address) が付けられて、バケツリレーで運搬

▶ パケットの中継機(router)：アドレスをみて、次の行先を決め(routing)、そこに中継

□ 事例: 家庭から大学の Web Page までの通信

○ 自宅の PC -> 家庭 LAN -> ISP -> (IX) -> ISP -> 大学 LAN -> 大学 Web Server

▶ tracert で試してみよう

通信 Protocol と OSI 参照モデル

□ 通信 Protocol とは

○ 通信を行うために行う手順(手続)の事

- ▶ 通信の目的によって、異なる Protocol が利用される
- ▶ (例1) http : hyper text transfer protocol (Web Page の送信する手順)
- ▶ (例2) https: http secure (安全な http, 暗号化/認証付き http)

□ OSI 参照モデル

○ 通信を階層化 (OSI では 7 階層) して捉える考え方

- ▶ 実際に通信を行うプログラムを作る時に、この考え方に沿って作る
- ▶ 階層化する事により、階層を組み合わせて利用する事が可能となる

○ 例 : 携帯電話から Web 参照通信

- ▶ 物理/データリンク層 -> WiFi
- ▶ ネットワーク層 -> IP
- ▶ トランスポート層 -> TCP
- ▶ セッション/プレゼンテーション/アプリケーション -> http

IP と IP Address

□ IP (Internet Protocol)

○ 通信パケットに IP Address を付与して通信を行う (葉書形式)

- ▶ IP Address : 電話における電話番号と同じ (通信相手を特定する番号)
- ▶ 基本は ID だが、場所の情報も持っている (電話番号でも 03 は東京..)

○ IPv4 (IP version 4)

- ▶ 現在も最も主流な IP (IP address が、4 byte [4 つ数値の組 : 42 億])
- ▶ 例 : 133.43.100.162 (edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp : 栗野の Web Server)

○ IPv6

- ▶ 今後、普及するであろう、新しい IP (Address の長さ 16 byte)

□ IP を利用して通信する (インターネットで通信する)

- IP Address を指定して通信を行う

Domain Name

□ Domain Name

- Network 上の範囲 (domain) を表す名前

 - ▶ word の並びを「.(ピリオド)」で区切ったもの

- 例 : edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp

 - ▶ (後ろから) jp:日本, ac:大学, nihon-u: 日本大学, cst:理工, math:数学科, edu-gw2 (という名前の PC)

- Internet 上の場所を論理的に表現したもの

 - ▶ 人間にとっては、IP Address より、扱い易い

□ DNS (Domain Name Service)

- Domain Name から IP Address を求めるサービス (町の交番のお巡りさん)

□ URL : Web Page の場所を表す (http://DomainName/パス名)

- DNS を利用して、Domain Name から IP Address を調べて、IP で通信を行う

おしまい

ICT リテラシー (情報技術論) A

おしまい

講義内容の静止画・動画での撮影、及び SNS 等への転載を固く禁じます